

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
岐阜市	合渡	令和2年2月26日	令和6年3月15日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	193.04 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	193.04 ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	37.49 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	12.31 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	12.31 ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	6.21 ha
(備考) 地区内の耕地面積193haの内訳：水田 148ha / 畑 45ha	

注1:③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

中心経営体である認定農業者を中心とした農地の集積・集約化を進めている一方で、中心経営体ではない農家による農業経営も継続している。
地区内の農地の担い手を維持していくためには、効率的な農地利用を推進することが不可欠である。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

水田利用について、中心経営体である認定農業者への農地の集積・集約化と、中心経営体ではない農業者の農地利用が効率的に行えるよう、農地の利用調整を更に進めていく。
また、地区外の認定農業者が地区内の水田の一部を利用して露地野菜を栽培しているため、調整を図る。

地区内にJA全農岐阜いちご研修所があり、研修所の修了生が多く就農しており、既存のいちご生産者と合わせて産地が形成されつつある。
引き続き、研修所修了生の就農に向けた支援を行い、担い手の育成及び産地化を推進していく。

注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

○農地中間管理機構の活用方針

平成26年度の制度開始以来、重点推進地域の指定を受けるなど、農地の集約化を目指し、農地所有者から機構への貸し付けを推進してきた。

今後も、出し手・受け手にかかわらず、原則として、農地を機構に貸し付けていくこととし、中心経営体が病気や怪我等の事情で営農の継続が困難になった場合には、農地バンクの機能を活用し、農地の一時保全管理や新たな受け手への付け替えを進めることができるよう、機構を通じて中心経営体への貸付けを進めていく。

○特産化作物の導入方針

地区内にJA全農岐阜いちご研修所がある利点を生かし、いちごの生産に取り組む。

○災害対策への取組方針

一日市場集落は、大雨時に集落内に湛水することが多いため、排水対策として、排水ポンプの更新に取り組む。